

チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝

うちの子は発達障害ですか？

インターネットで検索すると、「簡単なテストで発達障害を自己診断できます」、「インターネットによる発達障害チェックリスト」など、いつでも、誰でも、ボタン一つで気軽に情報を入手できる。

先日、ある小学校の母親と面談をした。知り合いの子どもがADHDの診断を受けたことをきっかけに、我が子のことが気になり、インターネットで調べた「発達障害の子どものチェックリスト」を実施したところ、当てはまる項目が多いため、「うちの子は障害があるのではないかと」、マーカーで印を付けたチェック表を見せてくれた。

〈母親が気になること〉

- ①毎日、「宿題しなさい」など、注意をしているが改善が見られない。
- ②漢字が苦手で、バランスよく書けない。
- ③約束したことを忘れてしまい、「そんなこと言ったっけ？」と話すことが多い。
- ④時々、不安定になると鉛筆を折ることがあった・・・etc.



ネット上の情報が全て子どもの状態像に当てはまるわけではない。人はみんな何かしらチェック項目に当てはまる特性をもっている。「今」大切なことは、子どもの特性を理解して、苦手さをカバーする環境を整えたり学びやすい方法を考えたりすること、子どもの短所ばかりでなく強みや得意な部分も注目して自己肯定感を高めることである。また、不安定になったときは、子どもの身体の中から流れるエネルギーを受け止め、「悔しかった、嫌だった」等のポジティブな感情を言葉で表現させたり、代弁したりすることで安心できることを伝えた。もし子どもが「お腹が痛い！」と訴えたとき、「食べ過ぎでしょ！」「薬を飲みなさい！」と原因や対処法を言う前に、「お腹が痛いの」という共感する一言を掛けることをお願いした。さらに、担任から本児は算数が得意である、友達と優しく関わっているエピソードを紹介したことで、ようやく母親の表情が和らいだ。

少子化や核家族化、地域社会のつながりの希薄さ、情報量の多さによる混乱等、保護者を取り巻く環境が変化している。子育てが「孤育て」にならように、保護者支援が子どもの安定につながる。

新刊図書の紹介



共生社会の形成、インクルーシブ教育の実現、障害者差別のない社会の形成のためには、一人一人の違いを認め合い、助け合いながら付き合う大切さを学ぶ障害理解授業が不可欠である。この度「気になる子たち」理解教育のきほん～クラスみんなで学ぶ障害理解授業の進め方～（教育開発研究所 発行）が出版された。「気になる子たち」の理解を学校・学級で進めるためのポイントを分かりやすく解説している。

昨年10月に、本校が男鹿市立潟西中学校で行った出前授業をはじめ、本校と学校間交流を続けている潟上市立追分小学校、本校の出前授業を系統的に計画している男鹿市立船川第一小学校、本校と連携しながら障害理解教育に取り組んでいる秋田県立視覚支援学校や聴覚支援学校の実践も紹介されている。

現在、本校では、地域の小・中学校、高等学校の先生方が、障害理解授業を進めるために活用できる「障害理解授業ガイド」を独自に作成中である。障害理解教育のねらいや配慮点、障害に関する基本的な用語解説、具体的な授業例や指導案、アクティビティ集、子どもたちの感想等を盛り込む予定である。

5月から「障害理解」出前授業をスタートさせる。今年度は、中学校や高等学校での授業を増やすとともに、保護者を対象に障害理解や子育てに関する出前講座も計画したい。